

❤️ アクションプラン

(1) 食で育む健康な「からだ」

事業名	ベジタブル大作戦
事業概要	<p>○バランスの良い食事と野菜の大切さを学ぶ。 ◆市内の保育園・幼稚園で、ランチョンマットを活用し、主食・主菜・副菜のそろった食事や野菜を食べることの大切さを学び、身につける。</p> <p>○野菜の摂取量を増やす環境づくりを行う。 ◆野菜が100g以上入った料理や惣菜、食品等を提供している店の周知や、1食100g以上の野菜を使用したレシピが掲載されたチラシを配布し、野菜がとりやすい環境をつくり、野菜の摂取量を増加させる。</p> <p>○野菜を食べることの大切さについての知識や実践力の向上。 ◆親子料理教室を開催し、講話や調理体験を通じて、野菜摂取についての知識や調理技術を向上させ、実践につなげる。</p>
関係団体	教育機関、保育園・幼稚園、ふるさと先生、JA、商工会（スーパー、飲食店等）、食生活改善推進協議会、行政
評価方法	園児や保護者の感想、教室参加者の感想、アンケート調査（野菜を毎日食べる者の割合）



(2) 食で育む豊かな「こころ」

事業名	だしとりマスター養成塾
事業概要	<p>○だしの良さ、和食の伝承を図る。 ◆市内の保育園・幼稚園でだしについての講話やかつお節の削り体験を行い、食の大切さや楽しさを学び、身につける。 また、そのだしを使った料理を食べることで、だしの良さや和食の味の優しさを知る機会をつくる。</p> <p>◆養成塾の様子を保護者へ伝え、だしの大切さについて再認識してもらう。</p>
関係団体	教育機関、保育園・幼稚園、ふるさと先生、JA、食生活改善推進協議会、行政
評価方法	教室参加者の感想、アンケート調査（だしをとることができるとする者の割合）



(3) 食で育む元気な「地域」

事業名	ち 神埼さん家（产地）の野菜大活躍プロジェクト
事業概要	<p>○地元食材や健康意識への関心を高め、地域を活性化させる。 ◆地元野菜の販売促進や市内のイベントについての情報を発信し、地産地消と地域の活性化を推進する。 また、食や健康についての情報も併せて発信し、健康意識や食への関心を高める。</p> <p>○地元食材が地元で食べられる体制づくりを行う。 ◆生産者、販売者（取扱い店等）、利用者（調理施設等）のネットワークづくりを行い、地元食材を使った料理（給食）が食べられる機会や場所を増やす。 また、生産者から消費者まで一丸となって食べ物を大切にする意識を高め、食品ロスを削減する。</p>
関係団体	教育機関、生産者の各部会、商工会（スーパー等）、ふるさと先生、JA、直売所、行政
評価方法	アンケート調査（地元食材の利用の割合、食品ロスの関心をもつ者の割合）



❤️ 食育推進の評価指標

食育推進の評価指標については、令和元年度神埼市食育アンケートの調査結果を考慮し、目標達成できた項目については、新たな目標値を設定し、達成できなかった項目については、達成できるよう、さらなる食育の推進に努めます。

項目	現状値	目標値
朝食を毎日食べる者の割合 (令和元年度神埼市食育アンケート)	幼児 93.6%	100%
	小学2年生 92.8%	
	小学5年生 89.6%	
	中学生 82.7%	95%
	高校生 83.8%	
	成人 82.3%	
	(再掲)20歳代 56.6%	90%
	(再掲)30歳代 60.9%	
	幼児 60.3%	75%
	小学2年生 60.9%	65%
野菜を毎日食べる者の割合 (令和元年度神埼市食育アンケート)	小学5年生 61.3%	60%
	中学生 58.1%	
	高校生 55.5%	
	成人 59.0%	
	(再掲)20歳代 31.3%	75%
	(再掲)30歳代 57.1%	
	小学5年生 22.2%	50%
だしをとっている者の割合 (令和元年度神埼市食育アンケート)	成人 17.7%	30%
	メタボリックシンドロームの割合 (該当者+予備群) (平成30年度神埼市国保特定健診結果より)	男性 50.4% 女性 21.9%
BMI25以上の者の割合 (平成30年度神埼市国保特定健診結果より)	男性 32.3%	18%
	女性 22.5%	15%
地元食材の利用の割合 (令和元年度神埼市食育アンケート)	成人 55.0%	75%
学校給食における県産食材の利用の割合 (令和元年度神埼市共同調理場調べ)		49.9% 50%
食品ロスの関心をもつ者の割合 (令和元年度神埼市食育アンケート)	全体 79.0%	85%